



今回のお題は:長年続けていることはなんですか?



オスネコ 80 様

10年間、縁ジョイ!を楽しみに見ていること。ノラネコにエサを30年あたえています。

六百九十八 様

水泳です!!生まれてから今まで32年間かかすことなく水に浸かっています。何も考えずにゆったり泳いでいると心も体もサッパリします。

名古屋の M 様

叔母への誕生日プレゼントです。子どもがいなくてもあり、昔から実の子のように可愛がってもらっています。誕生日であるクリスマスに、感謝を込めて彼女の好きなカサブランカの花束を贈って四半世紀。母へのプレゼントを忘れても何故か忘れない(笑)

友くん 様

義士の町「赤穂」で出生した私は小学校3年生で始めた剣道を現在まで続けています。剣道で知り合った全国の方達とは今も親しくさせていただいております。フランス、モナコ、イタリアでの稽古や試合も良い思い出です。



胡弓の達人 様

「呼吸」「朝風呂&ストレッチ」
たまに「深呼吸」

ひでポン 様

長いのは20年以上、お風呂上がりのタオルを使った肩回し。短いのは5年以上、1日30分のウォーキングです。



代表取締役 濃明 弘

子供が生まれた頃から30年程、毎晩床に入ってから、家族・両親・祖母・ご先祖様・守護霊様に感謝とお祈り!と寝てから寝ています。



営業部長 津田 弘一

戦記物の書籍を読むのが好きです。小学生の頃からです。最近日、ノンフィクション戦記をよく読んでいます。



事務 辰巳 貴子

酒をやめ、タバコをやめ、夜ふかしをやめ、弁当作りをやめ、フイにはTVも観なくなり、続いているのは寝る前の読書ぐらいです。(酒はまた飲みました...)



営業 米花 章弘

ONE PIECEの単行本が唯一書籍で買い続けています。他は連載が終わりに、電子書籍などに変わりまして、やめ時がわからず、続けています。



営業&事務 木崎 智子

お母さんの知恵袋、しゃっくりがイタガ、コップの反対側(自分と遠い方の縁)から水を飲む。医学的にもこの体習が良いらしい...



事務 濃明 恵利子

献立10。毎晩晩飯のメニューをメモして30年。現在20冊目。買い物の手定を立(ヤキ、過去の先客時や誕生日などの振り返りにも便利!!

◎次回のお題は...「おすすめ温泉スポット!」を教えてください。

FAX、メールでお寄せ下さい。お礼として、図書カードを進呈いたします。

ご応募メール: e-koaki@affetto.co.jp ご応募ファクス: 0798-43-0081

三井住友海上火災保険 三井住友海上あいおい生命保険
株式会社 アフェット
〒663-8184 西宮市鳴尾町1丁目14-2
TEL: 0798-43-0041 FAX: 0798-43-0081
Email: e-koaki@affetto.co.jp

スタッフが手作りで皆さまにお届けしているアフェットニュース



39 エンジョイ
2022 10月号
OCTOBER
https://www.affetto.co.jp/



あっという間にもう10月で、そろそろ年末の声が聞こえて来そうです。今年もやはりコロナに脅かされましたね。私は出来ることはやっておこうということで、4回目のワクチン接種も行ってきました。お客様の中にもコロナに罹患された方がいらっしゃいましたが、そんなにしんどくなかった方もいれば、凄く辛かったという方もいらっしゃいました。この時期は、秋の行楽シーズンでもありますので、感染には気を付けながらも、楽しく過ごして頂けたらと思います。皆様のおすすめ行楽スポットは何处でしょう。是非とも、教えて頂きたいです。コロナに負けず、仕事もプライベートも楽しく充実した生活になるよう、願っております。

津田 弘一

アフェット木崎の今日はどちらへ

別府



終戦を知らず（信じず）、30年間フィリピン・ルバング島に潜んで任務を遂行し続け、昭和49年帰国した小野田寛郎さんのことは、記憶にある方も多いでしょう。小野田寛郎さんと、陸軍中野学校二俣分校で同期だった井登慧さん（明石市在住・99歳）にお話を伺いました。

ご自身の体験、中野学校の教え、同期生だからこそ知る小野田さんのエピソードを前回に続いて掲載します。



【後編】 中野学校の教えと小野田寛郎くん

昭和20年8月15日の終戦を台湾で迎えました。中野学校二俣分校で3ヶ月間教育を受けた後、台湾軍へ行き、原住民である高砂族の志願兵を集めて米軍上陸に備えて遊撃戦の訓練をしていました。米軍は台湾には上陸しなかったため、私は命があって終戦となりました。昭和21年3月に日本に引き揚げ、徴兵前に就いていた教職に戻りました。

その後、ルバング島に小野田少尉がいることが分かりました。国はルバング島に2回捜索隊を出しましたが、小野田は出てこない。3回目にはお父さん、お兄さん、お姉さんも行って拡声器で「寛郎、日本は戦争も終わって平和になっている。迎えに来たから出てきなさい」と呼びかけましたが、出てこない。この時は中野学校の同期10人も捜索隊に加わっていました。彼らは、隊長（厚生省の役人）が「小野田は銃を持っているから危ない」と止めるのも聞かず、ジャングルに入って行き、「小野田！ 迎えに来たから出てきてくれ」と呼びかけました。するとガサガサッと音がした。その音まで聞いているのです。それでも出てこなかったため諦めて帰りました。その後、鈴木紀夫という青年が単独で小野田を探しに行きました。するとある日小野田が、小さいテントで一人でキャンプする鈴木青年を見つけたのです。靴下を履いているから日本人だろう（ルバング島の人には靴下を履かない）と思って小野田の方から近づき「おい、日本人か」と声をかけた。鈴木青年が「小野田さんですか」「もう戦争は終わって平和になっていますから、私と一緒に帰りましょう」と言うと、小野田は「俺は命令がないと帰れない」と言う。鈴木青年は、必ず命令を持って何日後にここへ戻ってくると約束をして日本に飛んで帰りました。厚生省に伝え、小野田に命令を与えた谷口少佐が九州・宮崎に居ることを突き止め、谷口さんと共に約束の日ルバング島に戻りました。そこで谷口少佐の命令を受けて、小野田は帰国することになったのです。その日はテントの中で小野田、谷口少佐、鈴木青年の3人で一晩中語り明かしました。こうして昭和49年3月12日、小野田は羽田空港に着き、大歓迎を受けました。それまで「中野は黙して語らず」で世に知られていませんでしたが、小野田の帰国でマスコミによって中野学校の名が出ました。これがきっかけで全国に呼び掛けて中野学校同窓会が出来ました。

その後、小野田はブラジルに渡り牧場経営をしました。ブラジルでも日本の新聞を読んでいた小野田は、子どもが金属バットで親を殴ったという記事を読んで憂い、自分に残された命を日本の青少年の健全な育成に捧げようと、福島の実業で「小野田自然塾」を開校しました。小中学生を1週間預かって寝起きを共にし、ルバング島でのことや自分で生きていく力について伝えました。小野田は30年間、徹底した健康管理をしながらルバング島のジャングルで生きてきました。生水は30年間一度も飲まなかった。川の水を汲んできて飯盒で沸かす。お湯を沸かすのに焚火を焚くと煙が上がって見つかるので消し炭を作って腰にぶら下げる。消し炭に火をいこいたら煙は上がらない。その火をいこすためのマッチもないので、竹を割って、小銃の弾の火薬を取り出したものと摩擦して火を起こし、その火を消し炭に取り、お湯を沸かしたのです。自身の手首の太さを見て体重の増減や胃腸の調子を見極め、捨てた灰で衣服を洗濯しました。鉛筆も手帳もないので、今日は何年何月何日と、ずっと憶えていました。昭和49年3月12日に帰国した時、自分の頭の中で考えていたのと6日しか違わなかったのは驚きです。うるう年が6回ぐらいあったからかなあと話していました。

私は昭和49年9月1日から1か月間、教育視察団で世界7か国を訪問しました。スウェーデン、東ドイツ、西ドイツ、イタリア、フランス、イギリス、大西洋を渡ってニューヨーク、アメリカを横断してサンフランシスコへ。国内を横断するのに4時間もかかる、大きな国と戦争したもんやなあと思いました。

この年の3月に小野田が帰国したので、まだ記憶に新しいはずだと思い、行く先々で「日本の軍人が30年間ルバング島にいて今年帰国したことを知っているか」と聞きました。どの国でも皆「知っている。ビッグニュースになっている」と言いました。ある国では「なぜもっと早く出てこなかったのか」と聞かれたので「日本の軍人は命令によって動いているので、命令がないと出ていけない。命令があったので出てきた」と答えました。絶対に死んではいけないという命令もありました。小野田は師団長から「ルバング島に行け、3年でも5年でもヤシの実をかじってでも生き延びよ」と言われていました。予備士官学校までは「命が惜しいのか！」と死ぬことを命ぜられていた。ところが中野学校では「死んではいけない。生き延びよ。命を大事にしろ」と教えられた。それで小野田は絶対死んではいかんと、徹底した健康管理をして30年間生き延びたのです。絶対生水を飲まないということも中野学校で学びました。「小野田、出てこい」という呼びかけに出て行かなかったのも、ニセの宣伝に惑わされてはいけないという教育を受けたからです。こういう宣伝をやり合うということを中野学校で習っているのです。その教育の影響があったと思います。



2007年5月・中野学校二俣分校同窓会
左：小野田寛郎さん 右：井登慧さん



上：少尉任官
下：台湾中隊長

私は、甲種幹部候補生になったから命があったと言えます。満州の原隊は釜山を経てフィリピンに渡り米軍と戦って全滅しました。当時いた中隊長、小隊長、班長、同僚、皆フィリピンで全滅したと、あとで知りびっくりしました。もし乙種で原隊にいたら、または騎兵学校卒業後に原隊に帰っていたら私も命はありませんでした。中野学校卒業後の行き先も命令によって決まります。私は大阪城の真下にあった中軍司令部付きとなりました。その後、台湾軍司令部から遊撃戦ができる幹部を10人よこせという要請を受け、台湾へ行くことに。九州・福岡の雁ノ巣飛行場から台湾へ行くのに3日待たされました。1日目、2日目は敵の飛行機が来る、爆撃がある、ということで足止め。3日目の夜、暗い時を見計らって小さい飛行機で飛び立ち、5時間ほどかけて何とか無事に台湾に到着しました。1機は途中で敵にやられたのか、向こうへ着きませんでした。中野学校の同期のうち10名は義烈空挺隊に行きました。彼らは九州の島の飛行場から特攻隊で飛び立ち、沖縄へ突っ込んで全滅です。

人間の運命とは不思議なものです。小野田みたいな30年もあれば、義烈空挺隊で特攻隊へ行って戦死する者もある。命令によって行く先が決まり、行く先によって運命が決まるんだから。私が台湾に行く時、沖縄より南にある台湾には先に米軍が上陸すると思っていました。沖縄へ行く者に「わしらが先に戦死するから、元気で頑張れよ」と言って別れました。沖縄は全滅、台湾に行った自分たちは命があったとは不思議なこと。人間の運命とはわからんものです。

【前編】入営から中野学校入校まで は、アフェットホームページの縁ジョイ！ バックナンバー vol.38 でご覧頂けます。